



## 105. リシリコンブ *Laminaria ochotensis*

Miyabe

図版43

地方名(北海道) マコンブ

漢字 利尻昆布

アイヌ語名 ルルキナ、ルルサシ、  
パラコイセ

【形態】 成長した葉は細長い  
さきの葉状で、長さは1.5~2.5  
m、ときに3mを超える。幅は  
13~20cmで縁辺部はわずかに  
波打つ。中帯部\*は幅の1/3~1/2  
で、葉の基部の輪郭はやや広い  
くさび形から円形。葉はやや硬  
く、黒褐色である。茎は円柱状  
で、長さは5~9cm、直径は5  
~10mm。

子のう斑\*は初めうら面基部  
の中帯部の両側にすじ状にでき  
て、その後全面に広がる。おも

て面ではやや遅れてできる。

本種はマコンブと共通点が多く、その変種\**Laminaria japonica* var. *ochotensis*とも考えられている。マコンブと比べて葉は短く細めで硬く、黒みが強い。

【生態】 北海道では松前半島の白神岬しろかみから日本海沿岸および宗谷海峡そうやを経て知床岬まで分布する。主な分布域は羽幌町はぼろから網走市あばしりまでで、主産地は稚内市、利尻島、礼文島である。サハリン、朝鮮半島にも分布する。

リシリコンブの寿命は2年である。2年目の5~6月に長さ、重量ともに最大となり、この時期には1日当たり約1.6cm伸びる。幅も成長とともに広くなり、2年目の夏季に最も幅広くなる。

リシリコンブの子のう斑は1年目コンブでは9月から、2年目コンブでは

7月からできる。1年目コンブに子のう斑がつくられるのは、肥大度（葉の単位面積当たりの生重量）が約110mg/cm<sup>2</sup>以上になるころで、浅みに生育する個体のほうが早く成熟\*する傾向がある。

子のう斑1cm<sup>2</sup>あたりには、約3,200万個の遊走子\*ができる。遊走子の放出は10～12月に最も多く、主として日の入りから日の出までの夜間に放出され、ふつう数時間以内に岩などに付着する。